

# ひるまだより

vol.59

医療法人社団トモニアコム  
**ひるま矯正歯科**  
Hiruma Orthodontic Office

発行:ひるま矯正歯科 発行日:2014年9月20日  
〒190-0012 立川市曙町2-9-1 菊屋ビルディング2F TEL:042-526-3376/FAX:042-528-1102  
URL:<http://www.hiruma.or.jp/>

◆ 矯正治療を始めたきっかけを教えてください。

— 実家が立川にあり、小学生の時から、かかりつけの歯医者さんとしてひるま矯正歯科にお世話になっていました。13歳の時に全部の歯が永久歯に生え変わったのですが、歯のでこぼこが強くなってきたのに加え、あごの骨にすべての歯がおさまりきららず下の奥歯に歯肉がかぶってきていたんです。歯並びが良くないのが原因だとわかっていましたし、矯正治療をすることで歯のでこぼこがなくなるだけでなく、歯磨きがしやすくなりフェイスラインもきれいになると書間先生に聞き、母とも相談して矯正治療を始めることにしました。

◆ 抜歯はしましたか。

— 書間先生から、ワイヤーを

## 治療後も歯の健康を考えてくれる医院に出会えてよかった

患者さんインタビュー 27▶▶▶▶▶Mさん



インタビューの内容をダイジェスト版でお届けします。全文はホームページでご覧下さい。

をつける前に上下左右4本の抜歯をすすめられまし。歯を4本も抜いて、そのすき間がちゃんとうまるのか心配でしたが、歯型の予測模型を見せていただき、その心配は吹き飛びました。

— 3〜4カ月に一度、歯のメンテナンスをしてもらうデンタルドックに通った時、書間先生が歯の健康についてのお話をしてくださいました。矯正治療で歯並びを整えた後も定期的に歯のメンテナンスを続けていくことで、「80才になった時も健康な自分の歯を20本保つことができる」と聞きました。矯正治療が終わったらそれで終わりではなく、歯の健康について長いスパンで考えてくださっていることをしみじみと感じて素晴らしいと思いました。

◆ 歯並びがよくなってきたのを実感したのはいつごろですか。

— もともと「ひどく歯並びが悪い」という状態ではなかったこともあり、気がついたらしい歯並びになっていったという感じです。矯正治療が終わって、ワイヤーをはずしてももらったときは、友達からも何か言われるかなと思っていたのですが特に反応はなく、「そういえばとれてるね」と感じて拍子抜けしました(笑)。

◆ 現在はどうに通院しているのですか。

— 3〜4カ月に一度、歯のメンテナンスをしてもらうデンタルドックに通った時、書間先生が歯の健康についてのお話をしてくださいました。矯正治療で歯並びを整えた後も定期的に歯のメンテナンスを続けていくことで、「80才になった時も健康な自分の歯を20本保つことができる」と聞きました。矯正治療が終わったらそれで終わりではなく、歯の健康について長いスパンで考えてくださっていることをしみじみと感じて素晴らしいと思いました。

◆ 現在はどうに通院しているのですか。

— 3〜4カ月に一度、歯のメンテナンスをしてもらうデンタルドックに通った時、書間先生が歯の健康についてのお話をしてくださいました。矯正治療で歯並びを整えた後も定期的に歯のメンテナンスを続けていくことで、「80才になった時も健康な自分の歯を20本保つことができる」と聞きました。矯正治療が終わったらそれで終わりではなく、歯の健康について長いスパンで考えてくださっていることをしみじみと感じて素晴らしいと思いました。



## Mさんの症状について解説します

● 初診時の診断: 「中立交合 叢生歯列 下後退顎」

Mさんは、先代の院長である父の代から歯の生え変わりの経過観察を行いました。初診時は7歳、前歯部の叢生は軽度でした。12歳頃より萌出し始めた第2大臼歯が顎骨に対して萌出余地が不足して十分に萌出できず歯が傾斜していました。治療方針は、第1小臼歯4本抜歯による治療と説明しました。非抜歯による矯正治療も可能な症例ですが、非抜歯の場合、治療する前とほとんど同じ状態になる可能性がある事、後戻りしてから再治療をする場合は抜歯による治療となる事から非抜歯を希望される場合は矯正治療を行わない方が良い事を説明しました。その結果、抜歯による治療を行い、第1大臼歯は近心(前方)に移動し第2大臼歯の萌出余地を獲得し、残りのスペースは前歯の後退により閉鎖し、口唇の突出感を改善する方針としました。

治療結果は、矯正治療により前歯が後退した事で口唇の突出感が改善、特に下唇の突出感が改善されました。上下歯列の抜歯スペースは叢生の改善と前歯の後退、大臼歯の近心移動により閉鎖され、第2大臼歯の萌出余地不足が解消され傾斜が改善されました。保定期間中に咬合状態はより安定し叢生の後戻りなどは無く、軟組織に大きな変化は認めませんでした。



◀写真左より、萌出余地が不足している右下7番、左上7番。側貌において、下唇の突出感が強いことがわかる。

大臼歯の近心移動により、上下左右7番の萌出余地不足が解消された。また前歯が後退したため下唇の突出感が改善された。